

## ヴォルテッラ

逃げるようにヴォルテッラに向かう。  
青い空の下に葡萄畑が広がる。



あの嵐は何だったのだろうか。フィレンツェからの旅人に対する八つ当たりの雨か。ヴォルテッラに到着。最初の来訪は、何気なく寄ったもので、町に対する知識をまったく持っていなかった。町に入ってから、ガイドブックを読む。町は全体が灰褐色高い石壁で囲まれていた。



「何だここは?」という軽い気持ちで、外の空き地に駐車して、罰金を気にしながら、高い石造りの建物の間の狭い道を入って行った。それは侵入者を阻止する狭い通路を通らなければ町に入って行けないという典型的な城塞町である。この町が、エトルリア文明の中心町であった。



中に入ると、少し道幅は広くなり、土産物店が並ぶ。

ここの特産品がアラバスターである。《アラバスターは雪花石膏と呼ばれ独特の暖かみのある乳白色の色合いを持ち、軟らかくて加工も楽なため、昔からさまざま用途に使われた。古代エジプトで有名で、「カノプス」と呼ばれる臓物(ミイラを作る際に取り出した)を納めるのに使われた。エトルリアの石棺にも使われていた。薄くすれば光を透過させるのでガラス代わりに用いられた。》



以前から我が家にあったフクロウがじつはこの町の特産品であったことを知る。



突然、町の中心広場に出る。商業広場であろう。



《このプリーオリ広場には 9 世紀半ばまでは大きな市が立つ商業地であった。》



この町の周辺はメタッリーフェンと呼ばれる丘陵地帯で、古代から岩塩をはじめ銅や鉛、アルミニウムなどの鉱物資源が豊富なことで知られていた。





、ヴォルテッラの前身、エトルリアの都市ヴェラトゥリはこの豊かな資源を背景に大いに栄えた。

#### エトルリア門

《紀元前4～3世紀のエトルリア時代に造られた城壁に開けられた門。現在まで残っている貴重な建築物のひとつ。半円筒型をしたアーチ部分の内部はローマ時代に修復されているが、そのほかの部分、外側の三つの人面の彫刻も含めて外側は創建当時のままに残っている》。



今日この町の最大の魅力となっているのがグアルナッチ・エトルリア博物館で、城塞(刑務所)の近くにある。

周辺のネクロポリから出土した骨壺埋葬品が数多く展示されている。紀元前5～1世紀のもの。なかでも後世詩人ダンヌツォが、「夕刻の影」と名づけた、全体がスラリと伸びたブロンズの彫像が名高い。

ジャコベッティの作品のまねでないかと怒る人もいるが、ヴォルテッラのそれは2千年も前のものである。ローマはギリシャのコピーだらけであるし、ルネサンスはよく描けた劇画である。明治の我が国の洋画は「欧州の画風」をいち早く取り入れたものである。バレルまでは名作である。

それにしても、エトルリア文化の気品はどこから生まれたのだろうか？



特に「婦人の表情に穏やかさと気品」がある。エトルリアでは婦人の地位は高く、

宴席に侍ることが許されていた。

ギリシャやローマでは考えられなかった。

《エトルリア諸都市はその草創期から、黄金の数世紀を経て紀元前 400 年頃まで栄えたが、言語を含めて現代でもそのすべてが解明されていない。(中略)そのひとつにローマが自分たちの血にエトルリア人の血が混ざっていると信じたくなかった》からと言われる。

このためもあってか、エトルリアは「いかがわしい民族・海賊で生計」などとギリシャなどから軽蔑された。

しかし、交易と海賊は紙一重であり、ギリシャと比べて海賊行為が多いわけではなかった。

また、「妻が酒宴に同伴する」から、エトルリアはいかがわしいというのもギリシャ人の偏屈な見方にすぎない。

抹殺されそうになったエトルリア文化であったが、その理由は《ローマ時代、その市内カピトリウム丘近くに「エトルリア街」と呼ばれる花町があった。つまり、「自分たちローマ人がいかがわしい民族の末裔であること」をやっきになって否定しようとした》と現代では言われている。

自分たちの祖先が「ロムス」から始まる神話の中にあつた」と信じたいローマ人には「ローマがエトルリアによって支配を受けていたとか、さらに先祖としての血類関係にあつた」などは到底受け入れることができない歴史であつた。これには、エトルリア民族が存在しなかつたとする以外になかつたと思われる。

自分たちは「ミケーネによって滅ぼされたトロイアの末裔である」と思いたかつた。

《灰燼に帰したトロイアでわずかに生き残つた王族の人々、なかでもトロイアの英雄

武将アエネアスの後裔である双子ロムスとレムスの子孫であるとする神話を信じかつた。しかし、ローマ王政後期の三代はエトルリア人であつたことが研究で明らかにされている。》

ローマがエトルリア文明から継承したものは多い。大下水溝や公共広場そして道路整備などの都市整備や競争場の設営もエトルリアの知恵である。またローマが珍重した「山羊や羊の肝臓による占い」もそうである。

つまり、エトルリア文明はローマにせん滅させられたのではなく、ローマに吸収されてその民族が消えたのだ。